

秋田県内企業向け「シニア雇用促進セミナー」を開催

2025 年 10 月 22 日（水）に秋田県内企業向けに「シニア雇用促進セミナー」を開催しました。本セミナーは 3 部構成でおこなわれ、現地、オンライン、パブリックビューイングからご参加いただきました。当日は、シニア層の活用を考える企業担当者に向けて、基礎から学ぶことができるセミナーとなりました。※本セミナーはアーカイブ配信をしております。詳細・申込方法は、レポートの後半でご案内しています。



（現地参加の様子）

第 1 部：関係機関による支援制度の紹介

公益財団法人 産業雇用安定センター（ジョブ産雇）秋田事務所 所長田崎 清俊様、公益社団法人 秋田県シルバー人材センター連合会総務主任 大山 開様より、各団体が提供する支援制度や登録方法についてご説明いただきました。

秋田県では生産年齢人口の減少が続いており、シニア層の活躍がますます重要になっています。企業においては、シニア人材が力を発揮できる業務の明確化と、支援団体の活用が鍵となることが示されました。

第 2 部：シニア層の最新動向と活用事例

Jun Associates 芦田様より、シニア層の就業に対する意識や希望の働き方などについてご紹介いただきました。

シニア層は「生きがい」「社会とのつながり」「経験の社会還元」といった思いを持って就職活動に取り組んでいる方もいます。清掃や送迎などの業務を任せることで、シニア求職者の意欲に応えると同時に、コア

業務を担う従業員の負担軽減やサービスの向上にもつながったという事例が紹介されました。結果として、人材の安定・定着にもつながります。

第3部：業務分解によるシニア活用の工夫

株式会社スタッフサービス メディカル事業本部の駒場 寿様より、シニア層が活躍するための介護施設における「業務分解の手法」についてご説明いただきました。駒場氏は、業務を単に細分化するのではなく、「時間軸」で捉える視点の重要性を強調しました。業務が点在すると、各業務の所要時間が短くなり、採用の難易度が上がるだけでなく、指示を出す側の負担も増加します。そのため、求職者それぞれに応じた業務選定と、時間の流れや導線を意識した業務設計が求められることがわかりました。

具体的な事例

活用事例 社会福祉法人A様
パートタイムの補助スタッフを6名活用（60代前半～70代半ば）
業務例：洗濯機を回す→乾燥機をかける→衣服をたたむ→入居者（75人分）ごとに下着やタオルを分けて各ユニットへ返却

課題解決のための運用方法

担当する仕事は『線』で作成	育成に手間をかけないために、介護補助者の1日の働く動線を何本か作成。コアタイムにその業務に入ればOK。※ユニットをまたぐこともある。
指導者は固定	指導者は固定する、可能であれば現場に入らない管理職を指導者へ。
マニュアル、指示書の作成	働く動線や使うものの場所、スケジュールを記した指示書などを準備する。※マンツーマンでの指導は不要。
対象スタッフの評価をしない	モチベーション維持のために評価をしない。感謝と存在意義を言葉にする。※タスク管理は行うが、個人を評価することはない。

Copyright©2020 STAFF SERVICE. All rights reserved.

（講師の駒場様）

今回のセミナーを通じて、シニア雇用の推進は単なる人手不足の解消にとどまらず、既存従業員の負担軽減や業務の効率化にもつながる可能性があることを改めて認識しました。アーカイブ配信にて、ぜひシニアが活躍できる環境づくりや業務選定について参考にしてください。

【講師】

Jun Associates 芦田 純子 様

株式会社スタッフサービス メディカル事業本部 駒場 寿 様

【日時】

2025 年 10 月 22 日（水）10：00～12：00

【場所】

にぎわい交流館 AU 展示ホール

【アーカイブ配信について】

アーカイブ配信希望の方は、以下 URL（または二次元コード）にて「質問 11 シニア雇用促進セミナー アーカイブ配信」にチェック または メールからお申し込みください。

○URL <https://forms.office.com/r/3rKGk4SKRM>

○二次元コード



○メールアドレス akita-ouenpjt@staffservice.ne.jp

以上